

全国でも話題の イベント & 施設

陸別町には、斬新なアイデアから生まれたイベントや施設があり、町民が主体となって運営しています。

しばれフェスティバル

開催日時:2月の第1土曜・日曜 場所:陸別町イベント広場 問い合わせ:実行委員会 (☎0156・27・3990)

- 1「人間耐寒テスト」は夜が明けたら終了。ラジオ体操の後、認定証の授与式が行われる
- 2澄み切った夜空に打ち上げられる花火。寒さを忘れて見入ってしまう
- 3バルーンマンション作りは連日、夜中まで水かけ作業が続く
- 42018年に続き、2019年も実行委員長を務める坂東さん。イベントの成功に向け、気を引き締める



強烈な寒さをメリットに しばれフェスティバル

マイナス20℃の寒さを満喫できるイベントとして、全国区でもおなじみ。2019年には38回目の開催となり、すっかり人気定着した。その魅力や舞台裏についてご紹介。

「日本一のしばれ」を体感できる「しばれフェスティバル」は、全国にその名を知られるイベント。中でも注目を集めるのが、「バルーンマンション」と呼ばれる氷のかまくらで一晩を過ごす「人間耐寒テスト」だ。回を重ねるごとに道外からの応募が増え、今や参加者の3分の1ほどを占めるまでになっている。

2月の開催に向けて準備が始まるのは12月末。例年たくさんの方がボランティアで参加し、町が一丸となる。中でもハードなのが、人間耐寒テストで使用する氷のかまくらづくり。イベントの1カ月前になると、連日午後6時から同11時ごろまで、氷や雪と格闘しながらの作業が続く。悪天候によって製作途中のかまくらが全壊することもあるため、「目標の100基が完成するまで、気が休まらない」と話すのは、実行委員長で商工会青年部・部長を務める坂東辰哉さん(37)。それでも、「作業後に皆で宴会をするのが楽しいし、何より達成感がある。陸別町民の団結力は自慢できます」と、坂東さんは胸を張る。

坂東さんが同フェスに携わるようになって、16年が経過した。親の世代が懸命にイベントを運営してきた姿を見てきただけに、「しばれフェスティバルはこの町に欠かせないもの。今後も継続していくために、皆で力を合わせたい」と、熱を込める。大切に受け継がれ、育まれてきた「しばれフェスティバル」は、町の未来を握る大切な財産だ。

「日本一のしばれ」を体感できる「しばれフェスティバル」は、全国にその名を知られるイベント。中でも注目を集めるのが、「バルーンマンション」と呼ばれる氷のかまくらで一晩を過ごす「人間耐寒テスト」だ。回を重ねるごとに道外からの応募が増え、今や参加者の3分の1ほどを占めるまでになっている。

2月の開催に向けて準備が始まるのは12月末。例年たくさんの方がボランティアで参加し、町が一丸となる。中でもハードなのが、人間耐寒テストで使用する氷のかまくらづくり。イベントの1カ月前になると、連日午後6時から同11時ごろまで、氷や雪と格闘しながらの作業が続く。悪天候によって製作途中のかまくらが全壊することもあるため、「目標の100基が完成するまで、気が休まらない」と話すのは、実行委員長で商工会青年部・部長を務める坂東辰哉さん(37)。それでも、「作業後に皆で宴会をするのが楽しいし、何より達成感がある。陸別町民の団結力は自慢できます」と、坂東さんは胸を張る。

坂東さんが同フェスに携わるようになって、16年が経過した。親の世代が懸命にイベントを運営してきた姿を見てきただけに、「しばれフェスティバルはこの町に欠かせないもの。今後も継続していくために、皆で力を合わせたい」と、熱を込める。大切に受け継がれ、育まれてきた「しばれフェスティバル」は、町の未来を握る大切な財産だ。

陸別の短い夏を彩る、音楽イベント



日本一寒い町で開かれる、真夏の野外フェス。道内のアマチュアミュージシャンを中心とした、熱いステージが展開される。開放感あふれる野外ステージで、思い切り盛り上がる。そのほか楽しいゲーム大会、ロックファイヤー点灯式など、仲間や家族で楽しめるイベントが盛りだくさん。会場には屋台も登場するので、グルメを満喫するのもよし。

しばれロックフェスティバル

開催日時:7月上旬(例年) 場所:陸別町イベント広場 問い合わせ:事務局(☎090・1642・0085(中村)) ※入場無料

全国へオフロードの魅力発信



〈陸別サーキット〉

全長1.3kmにおよぶ、国内最大級のオフロード専用コース。フォーミュラバギーやATVのレースなどが行われ、2001年からはラリーの国際大会も開催している。その迫力を実感するには、やはりレース観戦がお薦め。目の前で繰り広げられるパフォーマンスに、目が離せなくなる。パドックでメカニックの作業を見学するなど、レースの合間も見どころ満載。例年5月、8月に開催される「オフロードレース」は、今や全国各地からフォーミュラバギーやATVが集結する、一大イベントに成長した。



オフロードレース

開催日時:「オフロードバトル」5月第3日曜、「道新オフロードレース全日本選手権」8月第1日曜
場所:モータースポーツランド 陸別サーキット
問い合わせ:役場・産業振興課 (☎0156・27・2141)

ふるさと銀河線 りくべつ鉄道

陸別町を「鉄道ファン」の聖地へと押し上げたのが、「ふるさと銀河線 りくべつ鉄道」。実際に利用されていた線路や車両を保存して活用した観光鉄道で、臨場感あふれる運転体験が楽しめる人気を集めている。現在「りくべつ鉄道」として利用されているのは、1910(明治43)年に陸別と池田を結んで開業した「北海道ちほく高原鉄道 ふるさと銀河線」。町の基盤である農林業を支える交通手段として発展したが、時の流れとともに利用が減少。2006年には全線が廃止された。しかし廃線を惜しむ声は止まず、2008年には観光向けの「りくべつ鉄道」として新たなスタートを切ることになった。そのユニークな試みは全国の鉄道ファンを魅了し、今や海外からも客が訪れるほど。2017年には10周年を迎え、陸別の魅力を感じられるスポットとしてますます存在感を増している。



実際に使われていた車両や線路を使って、リアルな運転体験を楽しめる

ふるさと銀河線 りくべつ鉄道

陸別町字陸別原野線69-1 ☎0156・27・2244(9時~18時30分) FAX:0156・27・2791

ふるさと銀河線の歴史 網走本線~池北線~ふるさと銀河線年表

- [1910(明治43)年] 網走線池田~陸別(現陸別)間77.4km開業
- [1912(大正元)年] 網走線全通、池田~網走間を「網走本線」と改称する
- [1961(昭和36)年] 網走本線のうち、池田~北見間140.0kmを池北線とし、北見~網走間を石北線に編入
- [1987(昭和62)年] 国鉄民営化により北海道旅客鉄道に承継。貨物営業廃業
- [1989年] JR池北線廃止。北海道ちほく高原鉄道ふるさと銀河線開業(140.0km)
- [2001年] 「SL銀河号」を運行
- [2002年] 銀河鉄道999の作者・松本零士がデザインしたラッピング車両が登場
- [2006年] ふるさと銀河線全線廃止
- [2008年] ふるさと銀河線 りくべつ鉄道開業
- [2012年] 運転体験「銀河コース」延伸
- [2013年] トロッコ周回コースオープン

1980年頃の陸別駅ホームの様子



料金

- ◆乗車体験【所要時間…10分/大人300円、子ども200円】
駅構内を2往復する、気軽に体験できるコース。まずはこちらから!
- ◆足こぎトロッコ【所要時間…10分程度(利用者による)/大人300円、子ども200円】
駅構内の周回コースを使用し、400mのコースをぐるりと1周。
- ◆Sコース(予約優先)【所要時間…20分/2,000円】
駅構内で気動車を運転できる。運転指導員がいるので安心して挑戦を。
- ◆Lコース(要予約)【所要時間…80分/20,000円】
運転指導員から座学講習や点検の指導を受けられる充実のコースで、ポイント切り替えなどの体験もあり。対象は18才以上。
- ◆銀河コース(要予約)【所要時間…80分/30,000円】
Lコースを経験した人が対象で、鉄道運転の体験としては1.6kmと日本一の長距離。構外へ延伸開通します。



2018年7月に開催された「りくべつ鉄道まつり」の様子。当日は「花火列車」が運行され、祭りを盛り上げた



速度計や変速機など、テレビや本などで見た機器が目前に

家族で楽しめる足こぎトロッコ。風を切って走る爽快感がたまらない



2008年、りくべつ鉄道開業時に開催された記念式典

